

緊急消防援助隊情報

第6回緊急消防援助隊全国合同訓練

～実動訓練～

広域応援室

1. はじめに

令和4年11月12日（土）、13日（日）の2日間、静岡県静岡市等において「第6回緊急消防援助隊全国合同訓練」を実施しました。

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓に平成7年6月に創設され、27年間で計43の災害に出動し、国民の期待に応えるべく活動してきたところです。

消防庁では、緊急消防援助隊の消火・救急・救助技術や指揮・連携活動能力の向上を図ることを目的に、平成7年の創設以来おおむね5年に1回、全国の緊急消防援助隊が一堂に会して行う全国合同訓練を実施しています。

2. 訓練目的

南海トラフ地震等の大規模災害に対応できるよう、全国規模の参集訓練及び実践的な部隊運用訓練等を実施し、より迅速な参集体制の検証を行うこと、また、緊急消防援助隊基本計画において新設した土砂・風水害機動支援部隊やNBC災害即応部隊等の運用及び南海トラフ地震アクションプランの検証を行うことを目的に実施しました。

3. 訓練重点推進事項

(1) 迅速な部隊進出

全国各地の応援部隊が、陸路での進出のほか、自衛隊輸送機や民間フェリー等を用いて行う様々な進出に関し、その実効性を検証しました。



【自衛隊輸送機を用いた部隊進出】



【民間フェリーを用いた部隊進出】

(2) 都道府県や関係機関との連携

通常の訓練では連携することが困難な離れた都道府県や、自衛隊や警察、海上保安庁、TEC-FORCE、DMATと連携し、実践的な訓練を実施しました。



【他機関との連携】

(3) 新設部隊の検証

近年の災害を踏まえて新設した、土砂・風水害機動支援部隊、NBC災害即応部隊、航空指揮支援隊等の実効性を検証しました。



【土砂・風水害機動支援部隊】

(4) 広報の強化

緊急消防援助隊を広く知っていただくため、会場内にモニターを設置したり、全国訓練では初めてとなるYouTube配信を実施するなど、広報にも主眼を置いた訓練を実施しました。



【YouTubeライブ配信】



4. 訓練概要

(1) 本部運営訓練

① 静岡県庁での訓練

消防応援活動調整本部（以下「調整本部」という。）の指揮・調整能力の向上を図るため、調整本部の運営訓練について、実動訓練と連動させ、一部シナリオ非開示型により実施しました。また、消防庁と受援県内の各本部、消防庁と応援都道府県・消防本部との情報伝達を通じ、受援体制及び応援体制等の検証を行いました。

② 静岡県内消防本部での訓練

指揮本部及び指揮支援本部の指揮・調整能力、実動機関との連携能力等の向上を図るため、指揮支援本部の運営訓練について、実動訓練と連動させ、一部シナリオ非開示型により実施しました。また、指揮本部及び指揮支援本部と、県、緊急消防援助隊各隊等との情報伝達等を通じ、受援体制及び応援体制等の検証を行いました。



【本部運営訓練】

(2) 部隊運用訓練

① メイン会場：富士山静岡空港西側県有地

複数箇所において同時に発生した災害に対してドローンによる現場の確認を行い、各災害箇所には都道府県大隊を配置しました。その後、関係機関とともに、大規模災害時の連携や対応能力の強化を目的に、土砂災害救出訓練、毒劇物漏洩災害対応訓練、列車脱線事故救出訓練、中高層建築物倒壊救出訓練等を実施しました。



【中高層建築物倒壊救出訓練（富士山静岡空港西側県有地）】

② サブ会場：遠州灘海浜公園（篠原地区）建設予定地

被災地消防本部の初動対応状況や情報収集結果をもとに、緊急消防援助隊が関係機関と連携し、現地合同調整所を設置、各機関の部隊数や車両、装備及び部隊のローテーションに必要な各種情報の共有や活動エリ

アの調整等を行い、各機関と緊急消防援助隊の円滑な連携体制の構築を図ることを目的に大規模市街地火災対応訓練及び大規模津波災害対応訓練を実施しました。



【大規模津波災害対応訓練（遠州灘海浜公園（篠原地区）建設予定地）】

③ サテライト会場：安田造船所敷地

緊急消防援助隊が情報収集した孤立状況をもとに被災地消防本部と連携し、陸上からの救助活動や、航空小隊の安全管理及びホイスト救助の強化を目的に、倒壊家屋救出訓練及び津波漂流者救出訓練を実施しました。



【津波漂流者救出訓練（安田造船所敷地）】

④ サテライト会場：一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所

緊急消防援助隊が情報収集した被災状況について被災地消防本部への情報収集を行い、被災地消防本部と連携した救助活動を行いました。また、各都道府県大隊の連携体制等の強化を図ることを目的に、複数の都道府県大隊の中から、統括都道府県大隊長を指名し、橋梁崩落救出訓練やトンネル災害複合訓練を実施しました。



【トンネル災害複合訓練（一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所）】



⑤サテライト会場：静岡県消防学校

都市型捜索救助の手法を確立し、また、特殊車両等（航空機・はしご車等）の円滑な連携・運用の強化を図ることを目的に都市型捜索救出訓練及び複合建築物火災対応訓練を実施しました。



【複合建築物火災対応訓練（静岡県消防学校）】

⑥サテライト会場：ENEOS株式会社清水油槽所

石油コンビナート地区における災害を想定し、エネルギー・産業基盤災害即応部隊（ドラゴンハイパー・コマンドユニット）の複数部隊間の連携及び同部隊と連携した消防ロボットシステム（スクラムフォース）を活用した活動を確立することを目的に、石油コンビナート火災対応訓練を実施しました。



【複合建築物火災対応訓練（静岡県消防学校）】

（4）宿営訓練：静岡県小笠山総合運動公園エコパ駐車場等

後方支援体制及び感染防止対策等の強化を目的に、拠点機能形成車を活用し翌日の活動の打ち合わせ、都道府県大隊ごとに共同使用して食事メニューを統一するなどの宿営訓練を実施しました。



【宿営訓練（静岡県小笠山総合運動公園エコパ駐車場）】

（5）燃料補給訓練：外神スポーツ広場

燃料の確保が困難な場合を想定し、燃料補給車を使用した危険物の貯蔵・取扱いの運用を「震災時における危険物の仮貯蔵・仮取り扱い等の安全対策及び手続きに係るガイドライン」等に基づき実施しました。



【燃料補給訓練（外神スポーツ広場）】

（3）情報収集・配信訓練

大規模地震に伴い公共通信網の通信途絶を想定し、被災地の状況について、指揮支援本部だけではなく、消防庁や関係機関と情報共有を図ることを目的に、各被災地に投入された航空小隊、通信支援小隊及び静岡県衛星移動中継車により、上空及び地上から被災状況の調査、情報収集等を実施するとともに、撮影した被災地の状況画像を地域衛星通信ネットワークを介して、関係機関に伝送する訓練を行いました。



【情報配信訓練（一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所）】

5. おわりに

消防庁では、今回の訓練で得られた教訓を踏まえ、被災地において緊急消防援助隊が迅速かつ的確に活動できるよう、さらなる能力の向上に努めてまいります。

最後に、第6回緊急消防援助隊全国合同訓練の開催にあたり、多大な御協力を頂いた静岡県、静岡県内市町村及び消防本部、訓練参加消防本部並びに関係機関の皆様へ、心より感謝申し上げます。

問合せ先

消防庁国民保護・防災部防災課広域応援室
TEL: 03-5253-7569（直通）